

【日本李登輝友の会・注】 該当部分のみの抜粋です。全文は参議院HPを参照下さい。  
<http://www.sangiin.go.jp/>

166-参-外交防衛委員会-2号 平成19年03月15日

平成十九年三月十五日(木曜日)  
午前十時開会

委員の異動

三月十四日

辞任	補欠選任
緒方 靖夫君	仁比 聡平君

出席者は左のとおり。

委員長	田浦 直君
理事	

岡田 直樹君  
山本 一太君  
浅尾慶一郎君  
柳田 稔君  
高野 博師君

委員

浅野 勝人君  
北川イッセイ君  
小泉 昭男君  
櫻井 新君  
関口 昌一君  
犬塚 直史君  
喜納 昌吉君  
佐藤 道夫君  
榛葉賀津也君  
白 眞勲君  
浜田 昌良君  
仁比 聡平君

国務大臣

外務大臣	麻生 太郎君
防衛大臣	久間 章生君

副大臣

外務副大臣	浅野 勝人君
農林水産副大臣	国井 正幸君
防衛副大臣	木村 隆秀君

大臣政務官

外務大臣政務官	関口 昌一君
外務大臣政務官	浜田 昌良君
防衛大臣政務官	北川イッセイ君

事務局側

常任委員会専門員	泊 秀行君
----------	-------

政府参考人

内閣官房内閣参事官	下川眞樹太君
外務大臣官房地	

球規模課題審議  
官 鶴岡 公二君  
外務大臣官房審  
議官 木寺 昌人君  
外務大臣官房審  
議官 佐渡島志郎君  
外務大臣官房審  
議官 草賀 純男君  
外務大臣官房參  
事官 片上 慶一君  
外務省アジア大  
洋州局長 佐々江賢一郎君  
外務省北米局長 西宮 伸一君  
外務省中東アフ  
リカ局長 奥田 紀宏君  
外務省国際協力  
局長 別所 浩郎君  
農林水産大臣官  
房総括審議官 内藤 邦男君  
農林水産大臣官  
房審議官 笹谷 秀光君  
経済産業大臣官  
房審議官 高田 稔久君  
防衛大臣官房長 西川 徹矢君  
防衛省防衛政策  
局長 大古 和雄君  
防衛省運用企画  
局長 山崎信之郎君  
防衛省人事教育  
局長 増田 好平君  
防衛施設庁長官 北原 巖男君

本日の会議に付した案件  
政府参考人の出席要求に関する件  
外交、防衛等に関する調査  
(外交の基本方針に関する件)  
(国の防衛の基本方針に関する件)

岡田直樹君 時間も限られておりますけれども、もう一点だけ端的にお伺いをしたいのは、台湾のWHO総会へのオブザーバー参加の問題であります。

環境と同様に保健衛生の面ももうボーダーレスでありまして、これは東アジアの共同対処ということが強く望まれるわけでありまして。鳥インフルエンザ、新型インフルエンザに備える上でも、中国の反対もあってWHOに加盟していない台湾、この台湾が感染症の情報や対策の面で空白地帯になりはしないかと。かつてSARSの流行もありました。今、日本と台湾の人的交流は年間に二百五十万人と、これは年々増加をしておりますし、こうしたインフルエンザが東南アジアから台湾を経由して日本へ入ってこないとも限らないわけでありまして。日本国民を感染症から守ると、この見地からも台湾を空白地帯にすべきではない。

本当に、鳥やウイルスにとっては台湾が国であるか地域であるかなんということは全く関係のない話でありまして、中国や台湾の国際政治の思惑とは切り離して、人道的な問題として、そして中国の立場ももちろん十分配慮しつつ、台湾がせめてWHOの活動にオブザーバーとしてでも参加をすべきであろうと思っております。

この資料の四枚目に、下の方には、二〇〇四年のWHO総会において日本政府がこのときはオブ

ザーバー参加に賛成票を投じたわけでありませぬけれども、そのときの投票理由説明がございませぬ。その中に、関係者の、関係者のというのは主に中国を指すんだと思ひませぬけれども、関係者の満足する形で台湾がWHOに何らかの形でオブザーバー参加することが望ましいと思ひておると、こういうふうに表示をされたわけでありませぬが、このときの日本政府の表示というものは今も生きておると、考えは変わっていないと、このことを確認させていただきたいと思ひませぬ。

国務大臣(麻生太郎君) 今御指摘のありましたとおり、年間約二百五十万人、これビザなしで渡航できる関係もございませぬ、かなりな頻度、頻度というか、頻繁に両国間、両国というか両地域、国、そういったところとの往来があることは事実でございませぬ。したがひませぬ、今言われませぬように、この種の感染症という新しい一種の事態が日本にぱっと広がる可能性というものは、極めて我々としては恐れているところでもありませぬ。

したがひませぬ、この地域だけが全く空白地帯になるというのは、これはWHOの立場としてもいかにかなものかということをおの二〇〇五年のときに我々の方から言ったところでもありませぬが、この保健総会におきませぬ、我々としてはオブザーバー参加することが望ましいと、どうしてもいろいろな国の話とか、いろいろあるけれども、これはもう事は全然違ふんだからということをおの言ひ、今でも基本的にはこの問題に関しましては、我々は門戸を広げるべきだと思ひておると、この点については変わりはございませぬ。

岡田直樹君 ありがとうございます。

毎年台湾はオブザーバー参加を求めておるとありませぬけれども、オブザーバー参加させるか否かを議題にすることすらできない、言わば門前払いを食わされているわけでありませぬ。

今年五月にもWHOの総会がございませぬけれども、日本として関係国やあるいはWHOの事務局に対してこの台湾問題、どういうふうにおの協議をしていかれるか、私としては、例えばかつて共同歩調を取ったアメリカとも緊密な連携を取っていくべきだと思ひませぬが、この点について最後にお伺ひをしたいと思います。

国務大臣(麻生太郎君) WHOへの技術的活動、この種の用語では技術的活動と申すんです、技術的活動の参加拡大というものは極めて直接的な影響があるということはおのはっきりしていると思ひませぬ。

したがひませぬ、米国、欧州の主要国、また中国、WHO事務局、いろいろあると思ひませぬが、この件についてずっと話合ひを続けてきたというもおの事実だと思ひませぬが、本年の世界保健総会というものが五月におの開かれることになっておるとありませぬので、日本としては、この技術的活動への台湾の参加というものができるようにということに関しまして、従来どおり更にこれをやっけていかなないと、我々はかなり近いところにおのいて最も影響を受ける確率の高いところなんでお、おたくらとは立場が違ふと、うちはかなり近いんだからという話は今後とも続けていきたいと思ひておるとありませぬ。

岡田直樹君 終わります。ありがとうございました。